



教室史 優れた臨床医を育成する

耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室の歴史は、当大学が開学した1年後の昭和49年(1974年)4月に始まりました。耳鼻咽喉科学教室は、日本医科大学耳鼻咽喉科学教室より古内一郎先生が初代主任教授に就任し、また、時期を同じくして我が国初の気管食道科学教室として、東京慈恵会医科大学より日野原正主任教授が着任しました。その後平成9年(1997年)に耳鼻咽喉科と気管食道科は統合され、耳鼻咽喉科気管食道科と改称されました。現在は平成18年(2006年)に3代目主任教授として東京慈恵会医科大学耳鼻咽喉科教室より、春名眞一教授が就任し耳鼻咽喉科に改称、その後、平成21年(2009年)7月1日より耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室となっています。

これまで春名眞一主任教授が主催した主な学会は平成28年(2016年)10月に「第55回日本鼻科学会」、平成29年(2017年)6月に「第12回日本小児耳鼻咽喉科学会」を、そして平成30年(2018年)1月に「第28回日本頭頸部外科学会」です。また、平成30年(2018年)から「耳鼻咽喉科手術支援システム・ナビ研究会」の事務局を当教室に移し、第20回の記念大会を11月に宇都宮市で開催しました。なお、平成31年来年(2019年)11月には平林秀樹教授が「第71回日本気管食道科学会」を開催しました。



第55回日本鼻科学会にて



第71回日本気管食道科学会にて

診療・教育・研究 専門的かつ包括的な診療

(診療)

すべての領域でバランス良く医療を提供することはもとより、多様化する一人ひとりの患者さんのニーズに応えるべく、専門的かつ包括的な診療を実践しています。とくに鼻科領域においては春名眞一主任教授の指導の下、全国屈指の手術症例数を有し、さらには脳神経外科と合同で頭蓋底手術も施行するなど、最先端の治療を提供しています。また、当科の伝統である耳科学、頭頸部領域においても、他大学に引けをとらない手術症例数を誇っており、年2000件を超える手術を可能にしています。

平成25年(2013年)からは外来、病棟ともに耳鼻咽喉科専用の電子カルテシステムに移行し、画像データや内視鏡画像のみならず、その動画やめまいの眼振動画もカルテに連動して記録・保存できるようになりました。また外来においては患者さまのプライバシーに配慮した設計となっているのに加え、これまで分散していた検査室や言語・聴覚訓練室を同じフロアに集約することで、ほとんどの生理機能検査を初診時に行うことができるようになりました。



外来診察室、外来待合室

(教育)

当教室が開講し47年を経てもなお、優れた臨床医を育成するという伝統は現在でも脈々と受け継がれており、手術手技の伝承や将来の耳鼻咽喉科医養成を行っています。さらに、医学生のみならず全国の先生がたを対象に、鼻内内視鏡手術の技術向上を図るべく、平成22年(2010年)より解剖学教室協力の下、内視鏡手術研修会を開催しています。学内外を問わず気鋭の講師を招聘し、standardからadvanced ESS(鼻副鼻腔内視鏡手術)までの講習が可能です。また平成26年(2014年)の第5回内視鏡手術研修会からは内視鏡下耳科手術TESSに必要な側頭骨解剖の理解、技術向上も目的としたコースに拡大し、平成30年(2018年)からは本邦初のSleep Surgeryコースの研修会も併設しました。



手術研修会にて

(研究)

豊富な臨床データを生かし、日々の診療で生じた疑問を解明する視点からの研究を行っています。基礎研究については、医員室の隣にラボを設置し、研究機器の充実に努め、「診療が終わって、すぐ実験のできる環境」を整備しています。

①鼻副鼻腔領域

世界に先駆けて好酸球性副鼻腔炎の疾患概念を報告し、本邦の鼻科学の中心的存在である春名眞一主任教授の下で難治性疾患である好酸球性副鼻腔炎治療について研究しています。

具体的には以下のような研究テーマがあり、

- ・嗅粘膜障害における活性好酸球の関与
- ・副鼻腔疾患に対する治療効果の検討・鼻呼吸NO(一酸化窒素)の測定を中心に
- ・好酸球性副鼻腔炎患者に対するケナコルト®局所投与による治療効果の検討

これらの研究成果の一部は当教室の今野渉らによって「局所ステロイド処置による好酸球性副鼻腔炎(ECRS)術後の再燃抑制効果」としてまとめられ、2017年の日本鼻科学会誌優秀論文賞に選出されています。

さらに国内外の大学とも共同研究を進めています。金沢医科大学耳鼻咽喉科とは「感冒後嗅覚障害に対する当帰芍薬散とメコバラミンによる治療効果の比較検討」を進めているほか、米国のスタンフォード大学耳鼻咽喉・頭頸部外科と「International Sinonasal Disorders and Regeneration(和訳・副鼻腔疾患の病態解明と再生に関わる研究)」の国際共同研究をしています。

その他、これまで地元企業のマニー社とともに鼻中隔縫合機器のセプタムスティッチ®や鼻副鼻腔手術用のマニー ENTナイフ®を開発しました。

②アレルギー領域

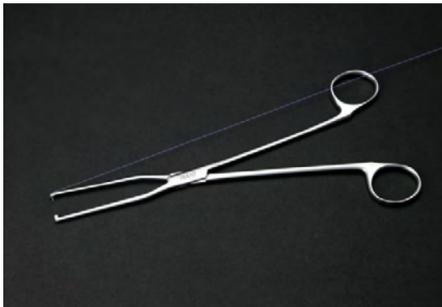
国内でも有数の長期に蓄積されたスギ花粉の定点観測データを元に、疫学的研究、環境要因の研究を行い、精度の高い花粉症の疫学的な調査や花粉の飛散量予測ができるようになりました。また、これまで鼻アレルギー診療ガイドラインの刊行に作成段階より関わり、全国規模のスギ花粉症有病率の疫学調査を実施いたしました。

③睡眠呼吸領域

平成18(2006)年にセンター化され、脳神経内科(宮本雅之教授(2014年より看護学部教授拝命)、鈴木圭輔教授(2020年より脳神経内科主任教授拝命))、心臓・血管内科(有川拓男准教授)と共に病院の中央部門の一つとして診療・研究を横断的に進めています。耳鼻咽喉科領域では内圧センサーを用い、鼻呼吸障害による睡眠中の上気道の形態変化を客観的に評価しているほか、小児睡眠呼吸障害例においては、扁桃組織に着目し、その肥大するメカニズムの基礎的研究を行っています。

④癌関連領域

頭頸部癌培養細胞を用いて、主に癌の浸潤メカニズムについての研究を行なっ



マニー社と共同開発したセプタムスティッチ®、ENTナイフ



研究室にて